



JICA 筑波 絆で結ぶ国際協力 —世界と TSUKUBA—



アフリカのコメ増産に向けた人材を育てる ～稲作振興支援～

アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)イニシアティブ

アフリカの人口増加と生活形態の変化によるコメの急激な需要増加に対応すべく、JICAは10の国際機関と協力して2008年に「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD※注1)」イニシアティブを立ち上げました。このイニシアティブでは2018年までの10年間にコメの生産量を倍増させることを目標としています。

これに基づき、JICA 筑波では、稲作を振興する行政官、専門家育成のため、下記の研修を実施しています。アフリカのコメの消費はますます増える中、目標年限の2018年度以降も継続的な支援が検討されています。

●サブサハラアフリカ地域・稲作開発振興コース



CARDに加盟している23か国は、国別稲作振興戦略(NRDS)を策定しています。本コースでは、NRDSやNRDSをベースに策定されている種子戦略、機械化戦略等のモデル事業を共有し、それらに関連する日本の技術を紹介しています。CARD事務局と協力して研修を実施しており、加盟国のCARD政策担当者が集まる場にもなっています。研修を通じて、関係者の継続的な情報交換とネットワーク強化を図ることができ、各国の稲作振興政策の実施促進やコメの生産量倍増計画に貢献しています。

●稲作技術向上コース

開発途上国の稲作は、栽培規模が零細で機械化が進んでいないことなどから生産性が低く、異常高温や早魃等の異常気象、病害虫の発生などにより生産量が不安定です。また、農家レベルの稲作生産向上には、適正技術の効率的な普及が必要ですが、普及体制が十分に整っておらず、普及員の技術も農家のニーズに対応しきれていません。本コースは、普及員が水稻(水田で栽培する稲)の基礎的な栽培技術や圃場での実証試験、農家への普及手法について学び、課題解決可能な人材となることを目指しています。帰国研修員の多くは、現地のJICA稲関連プロジェクトの中心として活躍しており、日本の稲作技術を途上国に伝える重要な役割を果たしています。



●陸稲栽培・種子生産及び品種選定技術コース



乾燥地が大半のアフリカでは、灌漑による水田稲作は容易ではありません。そこで、アフリカで天水でも高収量の稲を育てられるように生まれたのが、ネリカ(NERICA=New Rice for Africa)です。天水稲作は、水稻に比べて降水量の影響を直接受けるため、栽培管理が難しいとされています。本コースでは、ネリカ等を用いながら、天水稲作専門家の育成を目指しています。研修を通じて培った能力と研修成果を活かし、学術論文に投稿して掲載された帰国研修員もいます。

※関連 URL: 研修グッドプラクティス「陸稲の栽培・品種選定のエキスパートを目指す」↓
https://www.jica.go.jp/tsukuba/enterprise/kenshu/ku57pq0000fu1ku-att/rice_expert.pdf

*注1 CARD: Coalition for African Rice Development